

1. 平成21年度一般会計決算のポイント

《実質収支》実質収支は11億6,000万円 ～市税収入が減少中、厳しい財政運営が続く～

21年度は、効率的・効果的な予算執行に努めたものの、景気悪化の影響から市税収入が大幅に落ち込むなど、**大変厳しい財政運営**となりました。

具体的には、**市民税(個人、法人)や、県税交付金(地方消費税、自動車取得税等)などが、当初見込みを大きく下回った**ため、より効率的な執行管理を徹底すること等による**予算の減額**を行ったほか、**財源対策としての市債発行**などの手立てを講じることで収支不足を補いました。その結果、**実質収支は11億6,000万円**となりました。

なお、実質収支の1/2(5億8,000万円)は財政調整基金に繰り入れ、残りの1/2は22年度の財源として活用します。

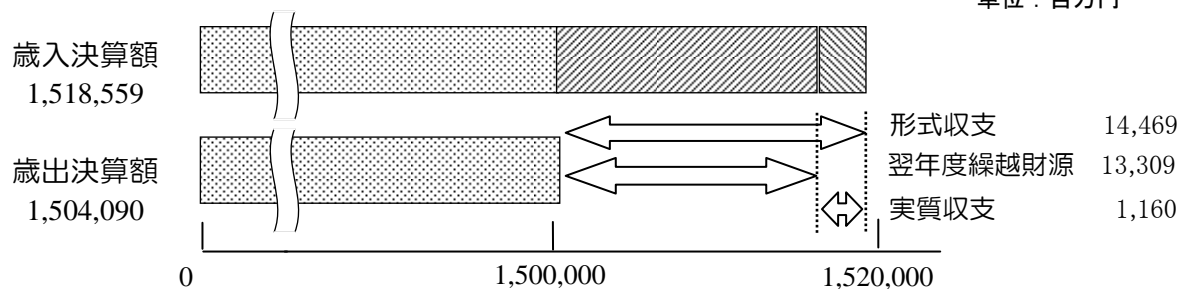
◇一般会計決算の状況

(単位：百万円)

区 分	21年度①	20年度②	増減①-②
歳入決算額 A	1,518,559	1,415,348	103,211
歳出決算額 B	1,504,090	1,345,165	158,925
形式収支 C = A - B	14,469	70,183	▲55,714
繰越財源 D	13,309	69,820	▲56,511
実質収支 E = C - D	1,160	364	796
当該年度に活用した前年度剰余金 F	182	565	▲383
当該年度のみ収支 G = E - F	978	▲201	1,179

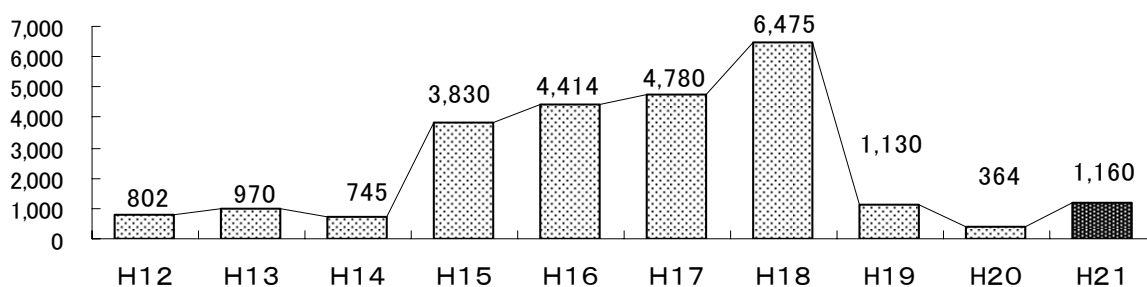
一般会計決算の状況

単位：百万円



実質収支の推移

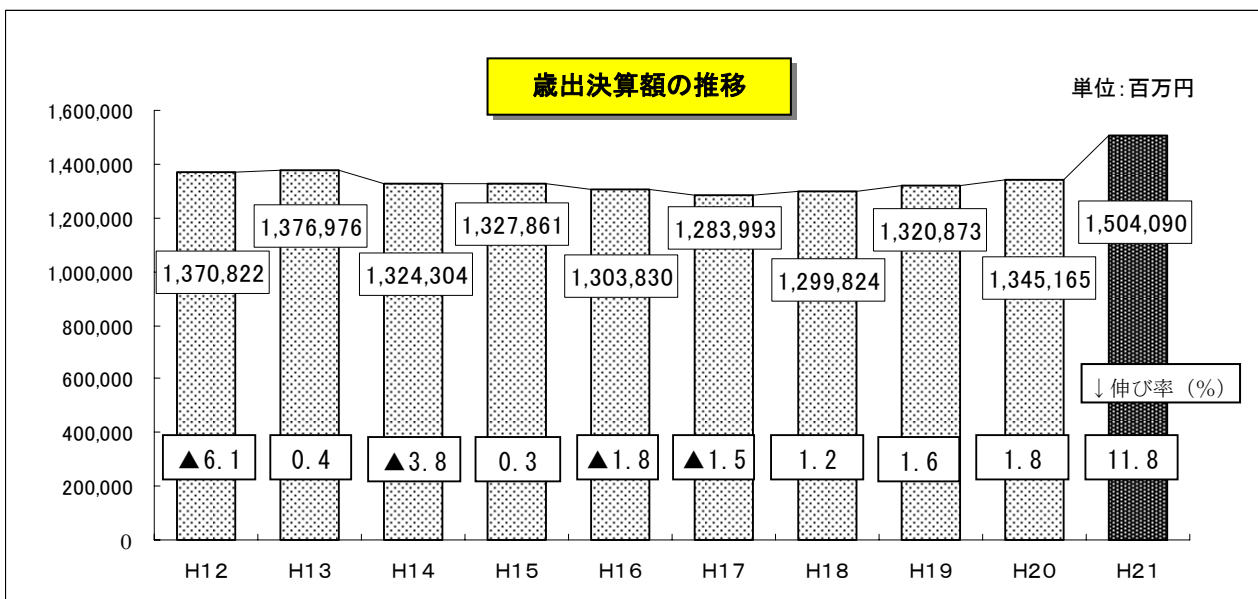
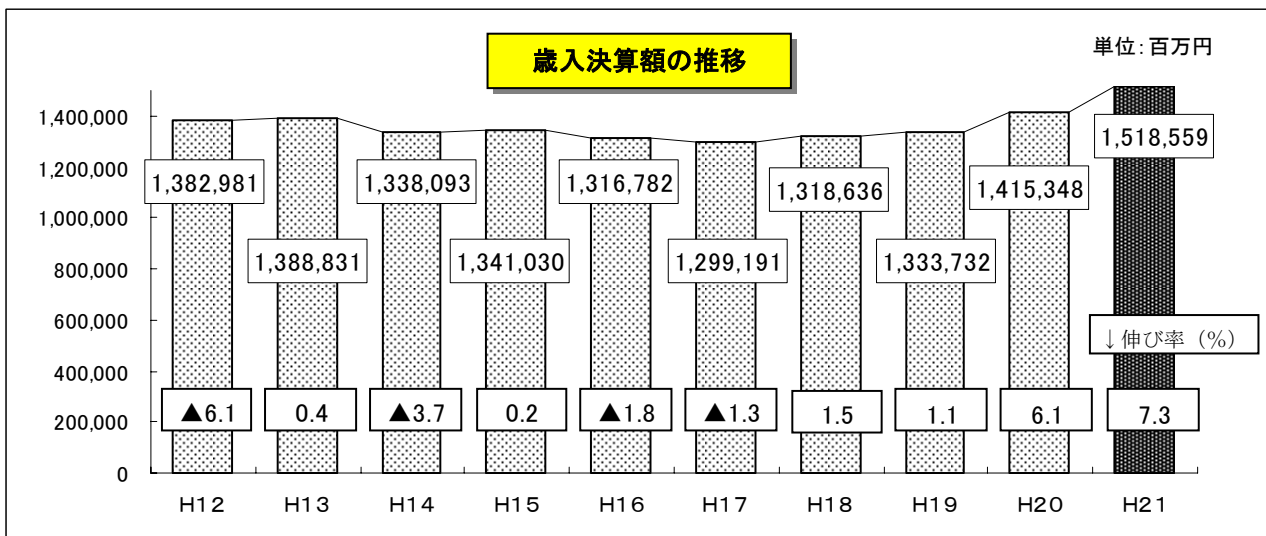
単位：百万円



《歳入・歳出》決算額は4年連続で増加

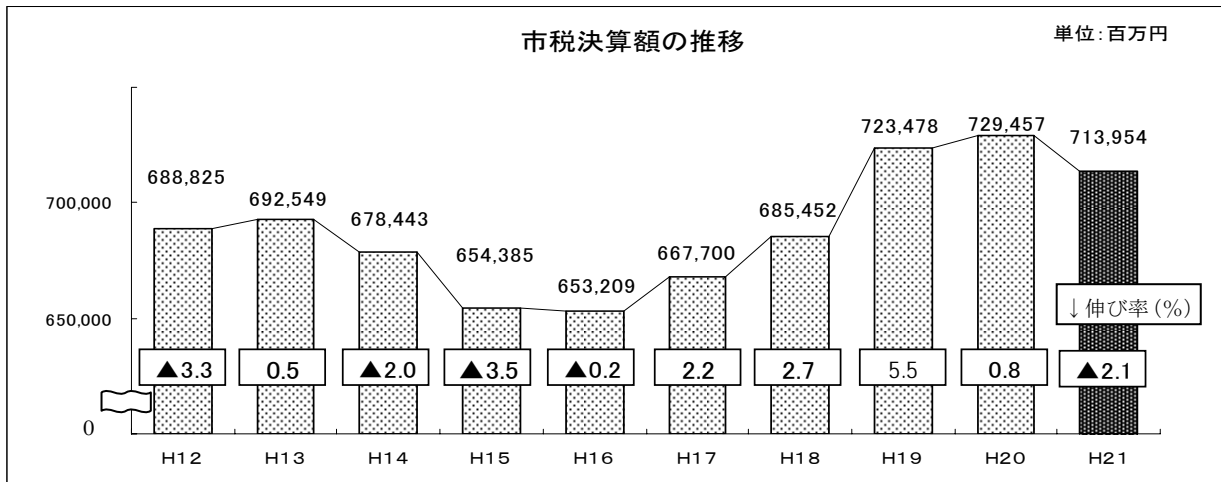
決算の規模としては、国の経済対策による公共事業費の増や、中小企業融資の拡充などにより、歳入・歳出ともに4年連続で前年度に比べ増えています。

歳入については、前年度に比べ1,032億1,100万円増の1兆5,185億5,900万円に、歳出については、前年度に比べ1,589億2,500万円増の1兆5,040億9,000万円となりました。



《市税》5年ぶりの減収

市税は、**企業収益の悪化による法人市民税の大幅な減**などにより、**前年度決算比▲2.1%**、**155億300万円減の7,139億5,400万円**となりました。これにより、**平成16年度以来、5年ぶりの減収**となりました。



《市債》発行額は前年度に比べ10.4%増、市債残高は5年ぶりに増加

経済・市民生活対策補正のために市債発行を増額したほか、市税の大幅な減少を補うため、減収補てん債などを発行しました。その結果、**一般会計の市債発行額は、前年度決算比120億4,400万円(10.4%)増の1,279億4,400万円**となりました。

市債残高は前年度末より121億600万円(0.5%、市民1人あたり800円)増の2兆3,858億9,300万円となり、**5年ぶりに増加**しました。

【参考】21年度末の市民1人あたり一般会計市債残高 約64万9,600円

